

平家物語木曾の最期確認テストその一 次の文章について後の問に答えなさい。

①今井四郎、木曾殿、主従二騎になつて、(のたまふ)けるは、「日ごろは何ともおぼえぬ鎧が、今日は重うなつたるぞや。」②今井四郎(申す)けるは、「御身もいまだ疲れさせたまはず、御馬も弱り候はず。③何によつてか、一領の御着背長を重うはおぼしめし候ふべき。④それは、御方に御勢が候はねば、臆病でこそさはおぼしめし(候ふ)。⑤兼平一人候ふとも、余の武者千騎とおぼしめせ。⑥矢七つ八つ候へば、しばらく防き矢つかまつらん。⑦あれに見え候ふ、栗津の松原と申す、あの松の中で御自害候へ。」とて、打つて行くほどに、⑧また新しの武者、五十騎ばかり出で来たり。⑨「君はあの松原へ入らせたまへ。⑩兼平はこのかたき防き候はん。」と申しければ、⑪木曾殿のたまひけるは、「義仲、都にていかにもなる(べし)つるが、これまで逃れ来るは、なんぢと一所で死なんと思ふためなり。⑫ところどころで討たれんよりも、ひとところどこそ討ち死にをもせめ。」とて、馬の鼻を並べて駆けんとしたまへば、⑬今井四郎、馬より飛び下り、主の馬の口に取りついて申しけるは、⑭「弓矢取りは、年ごろ日ごろいかなる高名候へども、最後のとき不覚しつれば、長き疵にて候ふなり。⑮御身は疲れさせたまひて候ふ。⑯続く勢は候はず。⑰かたきに押し隔てられ、言ふかひなき人の郎等に組み落とされたまひて、討たれさせたまひなば、⑱『さばかり日本国に(聞こゆ)させたまひつる木曾殿をば、それがしが郎等の討ちたてまつたる。』⑲なんど申さんことこそ、くちをしう候へ。⑳ただあの松原へ入らせたまへ。」と申しければ、・木曾、「さらば。」とて、栗津の松原へぞ駆けたまふ。

問一、文中の()の語を適切な形に直して記しなさい。

問二、——部の読み方を現代仮名遣いでひらがなで記しなさい。

問三、~~~~~部の文法的意味・終止形・活用形を記しなさい。

問四、 の「候ふ」の活用形をそれぞれ記しなさい。

問五、文番号④・⑱の——部を次の現代語訳に従って傍線注釈しなさい。

④味方に軍勢がないので

⑱お討たれになったならば

問六、部の語の敬語の種類と誰から誰への敬意(敬意の方向)かを記しなさい。

ただし、敬意の方向は次から選び記号で答えること。

(ア) 木曾殿 (イ) 今井四郎 (ウ) 作者 (エ) 郎等

問七、文番号⑥の「しばらく防き矢つかまつらん」を現代語訳しなさい。

問八、文番号⑪の「なんぢと一所で死なんと思ふためなり」を現代語訳しなさい。

問九、文番号⑫の「馬の鼻を並べて駆けんとしたまへ」とあるが、どうしてそのような行動をしたのか、次から選び記号で答えなさい。

(ア) 追っ手が来るので、先をいそいで逃げようとしたから。

(イ) 先にいる敵を自分が先に討とうと思つて急ぎたかつたから。

(ウ) 今井四郎と同じところで討ち死にをしたかつたから。

(エ) 今井四郎と一緒に生き延びたかつたから。

(オ) 木曾殿と一緒に戦つて討ち死にしたかつたから。

問十、文番号⑭の「最後の時の不覚」というのはどうなることか。具体的に記しなさい。

問十一、文番号②では「木曾殿は疲れていない」と言っているのに、何のために⑱では「疲れている」と言っているのか?

